

HP Virtualization Performance Viewer

Windows®およびLinuxオペレーティングシステム

ソフトウェア・バージョン : 01.00

インストールガイド

ドキュメント・リリース日 : 2012年11月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2012年11月 (英語版)



ご注意

保証

HP 製品, またはサービスの保証は, 当該製品, およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的, 編集上の誤り, または欠如について, HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は, 予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有, 使用, または複製するには, HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア, コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類, および商用アイテムの技術データは, FAR12.211 および 12.212 の規定に従い, ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は, Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft®およびWindows®は, 米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は, The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

または、HP Passport のログイン・ページの[**New users - please register**]リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

次の HP ソフトウェアのサポート Web サイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア・オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート・ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

アクセス・レベルに関する詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

インストールガイド	1
目次	5
本ドキュメントで使用される表記法	6
インストールの概要	7
インストールの必要条件	7
ハードウェアの必要条件	7
ディスク容量	7
サポートされるブラウザ	7
インストールの前提条件	8
インストールの手順	9
vPV仮想アプライアンスのデプロイ	9
vPVのインストール	10
在席操作によるインストール	10
非在席操作によるインストール	11
インストールの結果	12
HP vPVの削除	12
vPV仮想アプライアンスの削除	12
LinuxでのvPVのアンインストール	12
構成およびユーザーグラフテンプレートの削除	13
クリーンアップスクリプトを使用したvPVファイルの削除	13

第1章

本ドキュメントで使用される表記法

HP Virtualization Performance Viewer (vPV) システムのファイルの場所を示す際、次の表記法が本ドキュメントで使用されています。

表記法	説明	値
<install_dir>	vPVがインストールされているディレクトリです。	Linuxシステムでは、インストールディレクトリは/opt/OVです。
<data_dir>	HPソフトウェア製品関連のデータファイルやログファイルが格納される共通データディレクトリです。	データディレクトリは、/var/opt/OVです。

第2章

インストールの概要

本章では、次の項目に関する情報を提供します。

- vPVの現行バージョンがサポートされるオペレーティングシステム
- vPVを実行するために必要なハードウェアおよびソフトウェアコンポーネント
- 各オペレーティング環境で必要とされるコンポーネント

vPVをインストールする前に、7ページ「インストールの必要条件」をお読みください。

インストールの必要条件

インストール中、HPソフトウェアインストーラは次のタスクを実行します。

- システムがディスク容量の必要条件を満たしているかどうかを確認します。ディスク容量の詳細については、7ページ「ハードウェアの必要条件」を参照してください。
- システムに他のHPソフトウェア製品がインストールされているかどうかを確認します。
- 検出された内容を示す詳細ログを提供します。
- インストールされているコンポーネントの一覧を提供します。

ハードウェアの必要条件

vPVが動作するには、4GB以上のメモリが必要です。動作が遅いシステムやメモリの容量が少ないシステムにインストールすると、パフォーマンスが低下する場合があります。

ディスク容量

次の表に、さまざまな対応プラットフォームにvPVをインストールするために必要な最低ディスク容量を示します。

プラットフォーム	必要なディスク容量
Linux	20GB

サポートされるブラウザ

次の表に、vPVにアクセスするために必要なWebブラウザの一覧を示します。

オペレーティングシステム	サポートされるブラウザ
Microsoft Windows	Firefox 10 (ESR) および16

オペレーティングシステム	サポートされるブラウザ
	Internet Explorer 8および9
Linux	Firefox 10 (ESR) および16

vPVホームページを表示するには、Adobe® Flash Player 10.2以降をインストールし、Internet Explorer (IE) またはMozilla Firefoxブラウザで信頼済みサイトのリストにvPVを追加して、JavaScriptのサポートを有効にします。

インストールの前提条件

vPVは、他のHP BTOソフトウェア製品と共存できません。

vPVがインストールされているシステムにファイアウォールが存在する場合、ポート8081が開いていてvPVがリモートブラウザからアクセスできることを確認してください。HTTPSモードでアクセスするには、ポート8444を開く必要があります。

VAMI (Virtual Appliance Management Interface) にアクセスするには、ポート5480を開く必要があります。

第3章

インストールの手順

注意: システムにvPVをインストールするには、rootユーザーとしてログオンする必要があります。

vPV仮想アプライアンスのデプロイ

vPVを仮想アプライアンスとして使用することで、vCenterで簡単にデプロイできます。VMware vSphere Clientユーザーインターフェイスを使用して、仮想アプライアンスをデプロイできます。

VMware vCenter Serverのバージョン4.1、5、5.1をサポートしています。

vPV仮想アプライアンスをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. VMware vSphere Clientを開きます。
2. 資格情報を入力し、[ログイン] をクリックしてログインします。
3. [ファイル] > [OVFテンプレートのデプロイ] の順に選択します。[OVFテンプレートのデプロイ] ウィンドウが開きます。
4. [参照] をクリックして、vPV仮想アプライアンスファイルを保存している場所を参照します。
5. [次へ] をクリックします。ウィンドウに、仮想アプライアンスの詳細が表示されます。
6. [次へ] をクリックします。エンドユーザーライセンス契約の詳細が表示されます。
7. [同意] をクリックし、[次へ] をクリックします。
8. [名前] フィールドに仮想アプライアンスの名前を入力します。
9. [インベントリの場所] ツリーから仮想アプライアンスのデプロイ先を選択します。[次へ] をクリックします。
10. 仮想アプライアンスを実行する場所としてホストまたはクラスタを選択します。[次へ] をクリックします。
11. 仮想アプライアンスを実行する場所として特定のホストを選択します。[次へ] をクリックします。
12. 仮想マシンファイルの保管先のストレージ場所を選択します。[次へ] をクリックします。
13. 仮想ディスクを保管するためのディスク形式を選択します。[次へ] をクリックします。
14. 必要なネットワークプロパティを入力して、[次へ] をクリックします。ウィンドウに、デプロイメントの詳細が表示されます。
15. [デプロイ後にパワーオン] チェックボックスを選択します。
16. [終了] をクリックします。デプロイメントタスクが開始します。デプロイ後、仮想アプライアンス名がVMware vSphere Clientユーザーインターフェイスのツリーに表示されます。

注: 詳細については、VMwareのマニュアルを参照してください。VMwareによっては、手順が変

更される場合があります。

vPVのインストール

HP vPVは、次のいずれかの手順によりLinuxシステムにインストールできます。

- 10ページ「在席操作によるインストール」
- 11ページ「非在席操作によるインストール」

在席操作によるインストール

グラフィックインターフェイスおよびコマンドラインインターフェイスを介してLinuxシステムにHP vPVをインストールできます。

グラフィックインターフェイスを介してのHP vPVのインストール

X 11インターフェイスを使用してvPVをインストールするには、次のタスクを実行します。

1. rootユーザーとしてログインします。
2. CD/DVDドライブにvPV 1.00 CD/DVD-ROMメディアを挿入します。必要な場合は、CD/DVD-ROMをマウントします。
3. X11ターミナルウィンドウを使用してインストールを開始する場合は、次のコマンドを入力することで、DISPLAY変数をエクスポートしてX11ターミナルをポイントします。

```
export DISPLAY=<IP_Address/system_name>:0.0
```

4. 次を入力します。

```
<CD/DVD-ROM> HPPV_1.xx.xxx_setup.bin
```

HP vPVインストールウィザードが表示されます。このウィンドウに、紹介メッセージが表示されず。

注: Linuxシステムに初めてHP vPVをインストールする場合は、インストールパラメータを含むovinstallparams.iniファイルがシステムのtemporaryディレクトリに作成されます。インストール時、HPインストーラによってovinstallparams.iniファイルの確認が実行されます。HPインストーラがシステムでovinstallparams.iniファイルを検出すると、このファイルの値を再利用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 構成ファイルの値をデフォルト値として使用する場合は、[はい]をクリックします。
- 既存の構成ファイルを上書きする場合は[いいえ]をクリックします。

HPインストーラがファイルを検出しない場合、システムによってデフォルト値を含むovinstallparams.iniファイルがtemporaryディレクトリに作成されます。ovinstallparams.iniデータを保存するには、その他のHP製品をインストールする前にファイルを別の場所にコピーします。

5. HP vPVインストールウィザードで[次へ]をクリックします。ライセンス契約の画面が表示されます。

6. ライセンス契約の条件を確認します。インストールを続行するには、**[ライセンス使用許諾に同意します]** オプションを選択します。インストールウィザードによってインストールチェックが実行されます。
7. **[次へ]** をクリックします。インストール前の概要の画面が表示されます。この画面には、インストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。
8. **[インストール]** をクリックします。

注: インストールが失敗した場合は、ロールバックするか、インストールを中止できます。**[ロールバック]** オプションでは、すでにインストールされているコンポーネントをアンインストールします。**[終了]** をクリックすると、インストールが終了しますが、その時点ですでにインストールされているコンポーネントはアンインストールされません。次回 vPV をインストールする前に、インストーラによってインストールを再開するか、vPV をアンインストールするかを確認するプロンプトが表示されます。

9. **[詳細]** タブをクリックし、コンポーネントツリーを展開して、コンポーネントの一覧を表示します。
10. システムのログファイルを表示するには、**[ログファイルの表示]** をクリックします。
11. **[終了]** をクリックして、インストールを終了します。

注: システムを再起動する必要がある場合は、「システムの構成の変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。インストールを終了しますか?」というメッセージが表示されます。必須ではありませんが、インストール後にシステムを再起動することをお勧めします。

コマンドラインインターフェイスを介してのHP vPVのインストール

コマンドラインインターフェイスを介してvPVをインストールするには

1. rootユーザーとしてログインします。
2. CD/DVDドライブにvPV 1.00 CD/DVD-ROMメディアを挿入します。必要な場合は、CD/DVD-ROMをマウントします。
3. 次のコマンドを実行します。

スタンドアロンシステムにvPVをインストールする場合

```
<CD/DVDRROM_mount>/HPPV_1.xx.xxx_setup.bin -i console
```

4. ライセンス情報の「**ライセンス使用許諾に同意します**」というプロンプトが表示されたら、「Y」を入力して契約条項に同意し、インストールを続行します。インストーラによってすべてのインストール要件がチェックされます。
5. **Enter** をクリックして続行します。インストール前の概要が表示されます。
6. **Enter** をクリックして続行します。

インストールが完了すると、インストールが正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

非在席操作によるインストール

非在席操作によるインストールを実行するには

1. rootユーザーとしてログインします。
2. CD/DVDドライブにvPV 1.00 CD/DVD-ROMメディアを挿入します。必要な場合は、CD/DVD-ROMをマウントします。
3. CD/DVD-ROMがマウントされているディレクトリに移動します。
4. コマンドプロンプトで、次の構文を入力します。

```
./HPPV_1.xx.xxx_setup.bin -i silent
```

注: インストーラによって正常に動作するHP vPVが検出されると、`-i silent` コマンドを実行したときにHP vPVがアンインストールされます。検出されない場合は、vPVがインストールされます。

5. インストールを検証するには、ログファイルを確認します。

インストールの結果

正常なインストールの場合

- Linuxシステムでは、アプリケーションディレクトリおよびデータディレクトリのパスが表示されます。
- 次のインストールログファイルを表示できます。

- Linuxの場合 `:/tmp/HPPV_1.xx.xxx_HPPVInstaller.txt`
`/var/tmp/HPPVInstaller/PerfUtil-mm-dd-yyyy.log.0`

この場合、mmは月、ddは日、yyyyは年を示します。ファイル名は、インストールが実行された時間を示します。

HP vPVの削除

次の項に記述される手順を使用することで、LinuxシステムにインストールされたvPVを削除できます。

vPV仮想アプライアンスの削除

vPV仮想アプライアンスを削除するには、VMの電源をオフにしてからVMを削除します。

LinuxでのvPVのアンインストール

1. rootユーザーとしてログオンします。
2. `/opt/OV/Uninstall/HPPV`ディレクトリに変更します。
3. アンインストールを実行します。
 - X11インターフェイスを使用するには、必要に応じて`DISPLAY`変数をエクスポートして、X11ターミナルをポイントします。次に、コマンドを実行します。

```
./setup.bin
```

- コマンドラインインターフェイスを使用するには、次のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -i console
```

4. [アンインストール]を選択します。

構成およびユーザーグラフテンプレートの削除

vPVを削除しても、構成またはユーザーグラフテンプレートは削除されません。ファイルをデータディレクトリから手動で削除する必要があります。

クリーンアップスクリプトを使用したvPVファイルの削除

vPVを削除した後、次のクリーンアップスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、<install_dir>\supportにあります。

- `clnup_pv.sh` (Linuxの場合)

クリーンアップスクリプトによって<data_dir>\conf\perfから次のファイルが削除されます。

- `OVPmconfig.ini`
- `OVPmUsers.xml`
- `OVPmSystems.xml`
- `ovpm.tcf`
- `VPI_GraphsUserFavorites.txt`
- `OVPmReportTemplate.htm`
- 「VPI_」で始まる名前のすべてのフォルダ。
- すべてのPVデータベース関連ファイル

